Q 子どもたちが性犯罪に巻き込まれない為の予防策は

A 非行防止教室で危険性について周知啓発を図っている

繋（つなぎ） 由香（ゆか）

映像はこちらから

Q 子どもを守るために愛知県警等が開発したアプリ「コドマモ」の周知・啓発を、市立小中学校においても行ってはどうか。

A SNSの使用方法や個人情報の管理について、周知・啓発していくことが重要であることから「コドマモ」についても、校長会や生徒指導主任会を通し、家庭に向けて積極的に情報提供を行っていく。

Q 学校配布の学習用タブレット端末に「コドマモ」アプリをインストールできないか。

A 学校で取り扱う運用面の難しさや一元的に管理することに課題がある。他市町村の導入事例や検証結果等を注視していく。

●自主防災組織の取組

Q 自主防災組織のある自治会では、設置後定期的に訓練や講習会が実施できているのか。

A 自主防災組織は、市内162自治会で結成されている。定期的に訓練を実施しているのは、令和3年度は17組織、令和4年度は96組織、令和5年度は137組織であり、自主防災会等交流会としての訓練も含め、年々増加している。

Q 本市にも「かまどベンチ」を設置している公園があるが、設置した経緯と活用状況は。

A 直近に発生した大地震に考慮したものである。現在のところ活用された実績は無いが、公園の地区以外の自主防災組織の方々でも、希望があれば使用は可能である。

Q 韮塚直次郎の顕彰について

A 担当部署間で企画展等の調査研究をすすめる

湯本（ゆもと） 哲昭（てつあき）

映像はこちらから

Q 富岡製糸場建設以外の功績についての情報は。

A 明戸での地域振興に関することが多くある。たとえば、日本煉瓦製造会社設立の際の土地の買収については、会社と地域の人々との取りまとめ役として大きな力を発揮した。

●総合的な胃がん対策について

Q 胃がん検診の受診率は。

A 毎年国に報告している受診率は令和2年度が7・7%、令和3年度が7・2%、令和4年度が7・4%でほぼ横ばい状態である。

Q 受診率を上げる施策は。

A 現在、広報の、折り込みチラシ、ホームページ等での周知活動の他、深谷市国民健康保険の特定健康診査と同時に受診できるようにしているが受診率は横ばい状況である。今後は、受診対象者への受診勧奨の方法を検討していきたい。

Q ピロリ菌が胃がん発症に深く関わっているとの報告があるが、中学生世代にピロリ菌検査を実施する計画はあるか。

A 中学生に対するピロリ菌と胃がんの医学的な根拠が実証されている訳ではないため、直ぐに実施の計画はない。

Q 中学生へのピロリ菌検査の周知により父兄や周りの大人にも胃がんに対する注意喚起になるのでは。

A 国の「がん健診のありかた検討会」においてピロリ菌検査について協議していることから、今後の国の動向を注視して調査研究をしていく。

Q 公民館の指定管理者導入に向けて、万全か

A 着実に引き継ぎ事務をしている

五間（ごま） くみ子（こ）

映像はこちらから

Q 公民館は、令和7年4月に指定管理者の運営に移行するが、公民館・地区センター業務とも、市民に不安を抱かせる等の影響はないか。

A 十分な引き継ぎ期間を設け、市職員と指定管理者である深谷市地域振興財団職員による事務引継ぎ業務を丁寧に進めてきた。今後も、市民の方に安心してご利用いただけるよう連携していく。

●人事行政の課題解決のために

Q 昨今、地方公務員のなり手不足や中途退職者の増加が問題視されている。それら解決のため、成長実感と働きがいのある職場づくりを目指し、人事領域全般にわたる理念や方向性を示した総合人事戦略の策定を始めた自治体がある。取り組んでは。

A 現在、人材育成基本方針に沿って、職員の育成と働きやすい環境づくりに努めている。

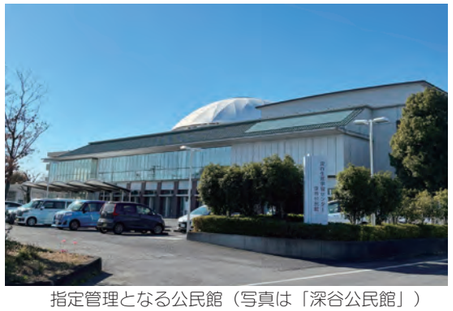
●GIGAスクール端末更新

Q 端末更新の調達計画は。

A 国の補助金を活用した効率的な調達を図るため、県が設置する共同調達会議に本市も参加し、令和7年5月に入札の予定で準備している。

Q 端末の適切な処分とデータ消去の取組について、市の対応は。

A リース契約満了時には、返却する端末を、教育委員会において、データ復元ができないよう初期化作業を行い、その後に返却する。



指定管理となる公民館（写真は「深谷公民館」）

Q 市としてフードドライブを実施することにした経緯は

A 県下一斉キャンペーンにあわせて事業を実施した

田口（たぐち） 英夫（ひでお）

映像はこちらから

Q 今回実施した結果は。

A 61人の方々から、お米や缶詰など844点の寄付をいただいた。

Q 小中学校でも実施したとのことだが、どのように実施したのか。

A 小学校12校、中学校10校で実施した。基本的には児童生徒が家庭から持ってきているが、地域の方々が持ってきてくれた学校もある。

Q 平日だけでなく、土日も受付できるようにする考えはないか。

A 土日での受付に協力してくれる団体があるとのことなので、検討していく。

Q フードドライブとは何かという本来の目的をPRしていく事も大事だと思うが。

A フードドライブ本来の目的は、食料の支援を通じて、貧困問題の解消、分け合う心の醸成等といったもので、この大切な活動について市民の皆様に理解と協力を得ることは非常に重要である。広報やSNSで目的や成果を発信し、より多くの人に知って頂けるように努めていく。

Q トイレットペーパー等の日用雑貨も一緒に受け付けたらどうか。

A 日用雑貨を追加する提案については、相談業務で寄せられる意見やニーズを踏まえ、必要性や効果を見極め検討していく。

Q 今後も継続して実施する考えはあるか。

A 継続して実施する事で、輪が広がり、さらに多くの協力につながると考える。関係機関と調整を図りながら、事業を継続していきたい。

フードドライブで寄付いただいた食品